のめりこまない

ことが大切

できることを無理せずに

関昭弘さん



【センター職員】

まずは関さんが「たまの手」の活動を始めることになったきっかけについて教えてくだ<mark>さ</mark>い。

【関さん】

多摩川住宅は調布市と狛江市の2市にまたがっていて、イ号棟と二が狛江市にあって、残りのロ・ハ・ホ・トの4つが調布市側にあってというちょっと特殊な団地です。活動のきっかけは、そのロ号棟の自治会の人ですね、ロ号棟は賃貸なので自治会があって昔から活発に活動していたんですが、高齢化によって、自治会の人たちだけでは段々と、今までできていたことが難しくなってきたんで、それで、ちょっとした電球の交換とか頼まれて、お礼なんかいいですよって言うんですけど、後から過分なお礼をいただいてしまうこともあって。

外出するのも大変な人なのに、わざわざ調布駅まで行ってお礼のお菓子買ってきて届けてくれるみたいな、頼まれ事よりも大変なことをやっているような状況が生まれてしまうこともあったので、ちょっとしたことを手伝ってあげられればいいんじゃないかという話が知り合いの間で挙がるようになって、たまたまその知り合いの中で一番若かった私に「やってよ」って、押し付けられたんですよ。(笑)

私は決して自分からやろうなんて言ってないんですが、「やりなよ」って言われて、結果 的に代表をしてます。

【センター職員】

たまの手の活動を始める前は、地域との関わりはありましたか?

【関さん】

もともとは全然ありませんでした。

10年ぐらい前までは会社勤めをしていたんですが、倒産してしまったんです。それでもうサラリーマンは嫌だなと思って、自分で会社を立ち上げて、1人社長の1人社員でやっているんですが、だから変に自由時間になっちゃったっていうか、時間の融通が利くようになったんです。そのタイミングで、多摩川住宅の団地祭りに自治連として参加するようになったんですが、そこでたまの手の活動に後々つながっていく方々と知り合ったという感じです。だから、それ以外は特に地域でのボランティアとかっていうのはそれまで全然やっていませんでした。

【センター職員】

最初は主体的にやっていこうという気持ちでのスタートではなかったということですが、3 年ちょっと実際にやってみて、ご自身の中で気持ちの変化などはありましたか?

【関さん】

変化っていう変化は自分の中ではあまりないというのが実際のところです。ただ、なんていうか基本的にはのめり込まないようにしようと思っています。やれることはやりますっていうスタンスで、大変な状況になってしまうのは嫌なので。

よくこういうインタビューを受けると、最終的にたまの手どうしたいのかと聞かれるんですけど、たまの手はもう壊滅してなくなるのが我々の理想で、それはもうどういうことかというと、我々がやっているようなことは、実は近所のコミュニティの中、コミュニケーションの中で誰かがやってくれればいいなって。我々が無理にやらなくていいんじゃないかっていうような気持ちがあるので、最後はたまの手がなくなることを願っています。

【センター職員】

たまの手の頼まれごとはどんなことを頼まれることが多いですか。

【関さん】

今はやっぱり電球交換ですね。蛍光灯とかのシーリングとか、上の方のやつですね。やっぱり台に登って交換するのは怖いし危ないので。それから粗大ごみなどのゴミ出しのお手伝いとか、定期的な買い物の手伝いなんかが多いです。

【センター職員】

たまの手の活動は、ご本人宅にお邪魔することも多いと思いますし、地域の方の生活に ぐっと入っていくような活動だと思うんですが、そうした活動を通じてご近所の方々とつ ながりが増えたことで、感じることとかはありますか。例えば地域の中での住みやすさが 増したとか、むしろ逆に知ってる人だらけになってきてかいろいろ気を使うことが増えた とか。

【関さん】

この辺の土地柄なのかどうかはわかんないですけど、知ってる人が多くなっても、別にそんなに煩わしいとかそういうことはないですね。近所を歩いていて声をかけられたり知ってる人に会ったりする頻度は増えました。

でもそれは自分にとっていいことだと思っています。知り合いが多いってことはいいことだと思います。

【センター職員】

それは具体的にどんな風にいいと思いますか?

【関さん】

何かお願い事するときはいいですよね、誰かに何か頼みたいなという時に、誰かの伝手の伝手ぐらいでは何とかなっちゃいますから。

生活の中で何かこんなことができる人がいたらいいなとかっていう時に、活動を通じて色々とつながった伝手の中で解決したりとかお願いしたりっていうことがありますから。 具体的には今度子ども食堂でカレーやろうって言ったときに、知り合い何人かに相談すると「よし、じゃあやろう」って手伝ってくれる人が現れるとか、そんな感じです。

【センター職員】

先ほどのお話の中で、目標としては、この活動自体がなくなっていくことが理想ということを仰っていたと思いますが、そういう地域にしていく、なっていくためにはどんなことが必要そうですか?

【関さん】

それはやっぱり難しいですよね。具体的にはたまの手というのが一個間にかんでいないとなかなか無いんじゃないですかね。近所の人がすぐ手伝ってくれるっていう、昔の感じが少ないですよね。

【センター職員】

そのあたりは活動しつつ葛藤みたいなものはあったりしますか?

【関さん】

私はないです。ないですというのも変ですけど、自然体でいたいですから、あえてそういうものを作らなければいけない、とか、地域がなんとかならなければいけないとか、考えないようにはしています。

さっきも話したかもしれないですが、できることはやりましょうっていうだけですね。自分にも生活がありますし、他に用があれば、なるべく断ることをちゃんとやろうね、と思っているのですが、実際には断りきれなかったり、頼まれると受けてあげたくなっちゃったりというのがありますからね。

【センター職員】

そうですよね、今どうしても困ってると言われると断りにくいこともありますよね。

【関さん】

だいたい行きますよね、電気切れてるとか電池ないとか言われると。

大体基本的には今日の今日は行きたくないんですけど、時間が空いていると「じゃあ10分後にいきます」とか「午後から行きます」っていうパターンですね。(笑)

だからこそ「無理はせずにできることをやる」、そこはぶれないように、忘れないようにしています。

【センター職員】

今、たまさん(困りごとのお手伝いに行くボランティアさん)は関さん以外に何名くらい いらっしゃいますか?

【関さん】

一応7-8人いるんですけど、高齢者と若い人がいるんで、あと、すぐ行ける人とすぐ行けない方もいるので。

粗大ごみのように来週の木曜日何時って決めれば何人か行けるんですけど、今日電話がかかってきて、今蛍光灯替えたいからというのはあまりいないので私が行くことになる感じです。それでも最近若い人がひとり入ってきてくれて。

【センター職員】

これが最後の質問になります、「ふくしの窓」を読んでくださった方の中には多分これから地域で何かしたいな、と思っている人もいれば、まだ全然考えていなくて、たまたま開いてみたら関さんのインタビューを読んだという人もいると思うのですが、この文章を読んでくれた人に対して何か関さんからメッセージみたいなものはありますか?

【関さん】

メッセージ…難しいですね。

この間、ある会議でボランティアって何ぞやっていう話があって、ボランティアをやっている人に対して、損しているんじゃないの?とか、なんでそんなことすんのって言っている人がいるという話をしていて。そこに居たのは私も含めてやってる側の人だから、我々はなんでやっているのだろうって話になったときに、基本は自分がやっていて気持ちがいい、そういうところかなっていう話で納得したんです。

多分、損得で考える人とは話が通じ合わないだろうなっていう話をしていたんですけど、欧米とか外国のボランティアについて前に話を聞いた時は、当たり前に考えている人が多いとか、ある程度地位の高い人は積極的に寄付をしているとかいう話を聞いたりして、やらなければいけないというものでもないんだけど、自分のできることで誰かが喜んでくれるのであれば、それは「やってあげる」というのもおこがましいんだけど、やればいいんじゃないかって思って。

ボランティアって、できる範囲で自分ができることをするっていうのでいいんじゃないかと思うんですけど、

まあ、「ふくしの窓」を読む人はそれなりに興味のある人だろうと思いますから、もし 迷っているんだったら一回試してやってみたらいいと思うし、合わないんだったら別に無 理して続けることもなからやめればいいんで、

やってみて色々違う世界というか、体験してみるのもいいんじゃないかと思います。

普段関わっていないような人との出会いもありますし、そういう中で最初に思い描いてたこととは何かやってるうちにどんどん違う方向に広がって行ったりすることがあるのが面白いなと今思っています。

最近は、それこそ色々な伝手で農家さんに野菜の収穫に行ったんですが、まさかこの歳になってキャベツの収穫に行くとは思わなかったです。60歳にして初めてキャベツの切り方を知ったとか、面白いです。調布市内にもそういう農家さんが居るんだとか、いろいろ知らないことを知るっていうのが面白いなと思います。

【センター職員】

貴重なお話ありがとうございます。

自然体で、できることをやるというところが、やっぱり素敵だなと感じました。こうした活動は一度スタートすると途中でやめたり、断ったりするのも難しいと思いますが、そうした心がけが活動継続のコツなのかもしれないですね。私も勉強になりました。

【関さん】

活動は一人じゃないんでね、やっぱり仲間がいてっていう感じで、それぞれの特徴があって役割分担があるんで、

無理せず、好きな、得意なところで力を発揮するというか、そんな風にやっていっています。